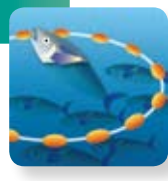


# 第5章 現在の和歌山と将来



## 海の幸を追って

時代区分	旧石器・縄文・弥生時代
	古墳時代
	飛鳥・奈良・平安時代
	鎌倉・室町時代
	戦国・安土桃山時代
	江戸時代
	明治・大正・昭和(戦前)時代
	昭和(戦後)・平成時代

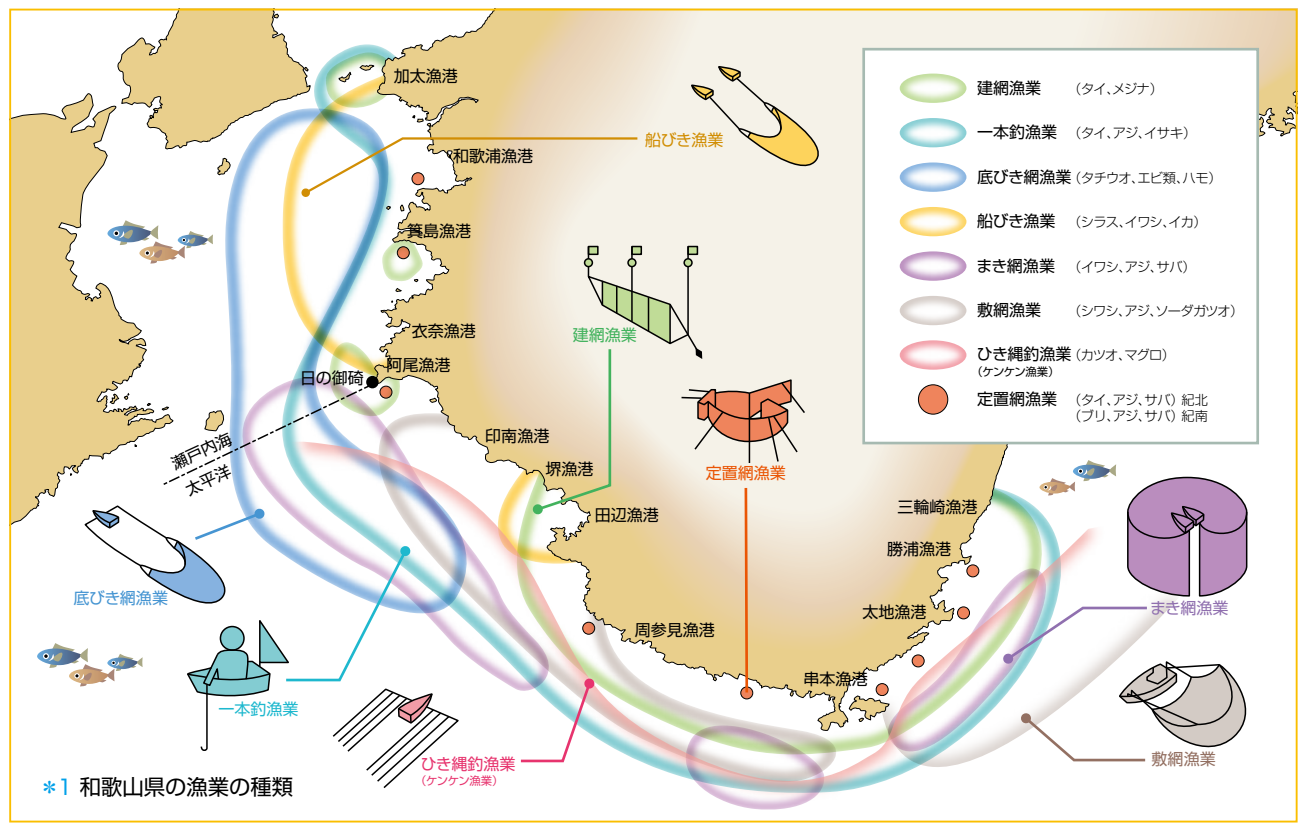
### 漁業の発達

1960年代に入って、日本経済は <sup>こうけいき</sup>好景気がつづき、人々の生活も豊かになり、魚を食べる量も増えました。魚の値段も次第に上がり、水産業にたずさわる人々も漁業の発展に熱が入るようになりました。

魚網はそれまでの綿糸から化学繊維に変わり、漁船も木造船から軽い材料でつくり、燃料が少なくすむエンジンを使ったFRP船(強化プラスチック船)に変わりました。そのため、網干しや船の手入れも手間がかからなくなりました。魚群探知機もでき、より正確に魚群の量や種類まで予想できるようになりました。約600kmにおよぶ海岸線のつづく和歌山県の海では、こうした新しい設備の漁船と漁具によっていろいろな漁業が営まれています。

このように漁業の仕事は楽になりましたが、たくさんの資金がかかります。また年々漁獲量が少なくなっているのが気になります。

勝浦港は全国でも指折りのマグロ漁業の基地です。漁場に近いくことがマグロ基地に発展した理由といわれます。1960年代に、マグロ漁が盛んになってから勝浦港は活気を帯びてきました。そうしたところからマグロは和歌山県の魚に指定されています。



\*1 和歌山県の漁業の種類

\*1 和歌山県農林水産部水産局「和歌山の水産」「目で見る和歌山の漁業」(2008年)から作成。

勝浦港に水揚げするマグロは、生マグロとマイナス40～50度に凍らせて運んでくる遠洋漁業の冷凍マグロがあります。マグロはさしみやすしに人気のある高級魚ですから、水揚げが少なくなることは勝浦港の繁栄に大きな影響があります。また交通事情の改善と消費地の拡大が課題です。

## 沿岸埋立て・養殖

日本にはいろいろな遠洋漁業があり、かつては南極海（南氷洋）をはじめ世界の各海域へ進出しましたが、世界的な商業捕鯨の禁止や経済水域200海里のような規制が強まり、遠洋漁業の比率は下がりました。

1960年代から日本の工業が発展し、全国的に臨海や内陸の工業化・都市化が進み、和歌山県でも海を埋め立てて工業用地をつくりました。そのため土砂や汚水が流れて海が汚れ、漁場が少なくなりました。藻場（海中林ともいう）は、カジメ・ホンダワラなどの海藻の多いところで、魚の稚魚の生育場になり、海をきれいにする作用があります。

また、江戸時代から知られていた魚を集める魚付林も大切です。今も県内には15市町の沿岸や島に魚付保安林があります。魚のえさになるプランクトンや海藻の栄養分は、川から流れこむ森の腐植土の養分です。魚が育つ海にするには豊かな陸の緑がかかせないので、全国的に漁業協同組合と森林組合が協力して、積極的に植林をすすめています。

一方、稚魚を放流したり、海底に人工磯を築いて藻場を増やしたりしています。和歌山県では、紀北の瀬戸内海で、ワカメ・タイ・ヒラメ・ハマチの養殖が行われています。田辺湾から串本・勝浦にかけての太平洋南区では、タイが養殖されていますが、近年一部の漁港ではマグロが養殖されています。水産試験場、栽培漁業センターなどでは増殖の研究をし、漁業協同組合を経て、漁師の人々によって沿岸各地に稚魚を放流して増殖がはかられています。

赤潮の発生は近年少なくなりました。赤潮の研究が進み、赤潮はリンやチッソが大量に増え、日照や温度の上昇が作用して発生することがわかってきたのです。海の環境をよくしようとするみんなの努力が実ってきました。



太地町立くじらの博物館

## 捕鯨

太地の漁業者は、かつて捕鯨船に乗り組んで南氷洋をはじめ、世界の各海域へ出漁していました。一番盛んであったのは1955（昭和30）年ごろで、20,000 t級の巨大な母船が十数隻のキャッチボート（捕鯨船）とともに、大船団で出漁しました。やがて船団の規模も小さくなり、1980年代には母船と捕鯨船4隻ぐらいになりました。

大型の沿岸捕鯨は1987年まで行われ、マッコウ鯨やニタリ鯨など大型の鯨を捕らえていました。小型沿岸捕鯨は50 t未満の小型捕鯨船で、ミンク鯨・ゴンドウ鯨など小型の鯨を捕らえます。ミンク鯨も1987年を最後にIWC（国際捕鯨委員会）によって禁止され、現在ではゴンドウ鯨などを、限られた数だけ捕らえています。

日本では昔から「鯨一頭、七浦うるおす」といわれるくらい、鯨の肉・皮脂・内臓・ひげなどあらゆる部分を利用してきました。全国には鯨や魚に感謝し、その霊をなぐさめるための鯨塚や魚類供養碑がたくさん建てられています。太地でも毎年4月に供養祭がもよおされています。串本町大島にも弔鯨塔がありますが、紀州漁業者のやさしい心がしのばれます。

\* 1 1海里は1.852m。

\* 2 魚類を集め、またその繁殖・保護をはかる目的で設けた海岸林。

\* 3 人工的に孵化した稚魚を海面に放流し、これらが成長したあと再捕獲する漁業。